

## 令和 2 年度病害虫発生予察特殊報第 6 号

令和 3 年 1 月 18 日  
静岡県病害虫防除所長

1 病害虫名 ヨコバイ科の一種 *Eupteryx decemnotata* (Rey) (和名なし)

2 発生作物 ローズマリー

3 発生経過

令和 2 年 12 月に県西部地域のローズマリーにおいて、葉にかすり状の小斑点の被害とヨコバイ類の寄生が確認された。現地で採集した個体について、農林水産省名古屋植物防疫所清水支所に同定を依頼したところ、*Eupteryx decemnotata* (Rey) (ヨコバイ科ヒメヨコバイ亜科) と同定された。

4 海外及び国内での発生状況

本種はヨーロッパ原産であり、これまでにイタリア、フランス、ドイツ、ポルトガル、スイス、オーストリア、スロベニア、ギリシャ、イギリス及びアメリカ合衆国で発生が確認されている。日本では、平成 28 年に千葉県で本種の初発生が確認され、その後は神奈川県、大分県、大阪府、京都府、愛知県及び東京都で発生が確認されている。

5 形態及び生態

成虫の体長は 2.2～3.0mm で細長く、体色は黄緑色である (図 1)。頭部には 10 個の黒色斑紋を備える (図 2)。前翅には、褐色で縁取られた斑紋が多数ある。

日本国内での生態は不明である。ヨーロッパでは卵越冬し、6～10 月にかけて成虫が発生し、最低でも年 2 世代が発生する。施設内では冬期も発生がみられる。発育期間 (卵～成虫の期間) は 20℃ 条件下で約 40 日、1 頭の雌は 1 日あたり 2～4 個の卵を 3 週間以上産み続ける。

6 寄主植物

寄主植物はシソ科で、海外ではローズマリーの他にイヌハッカ、オレガノ、セージ、タイム、バジル、ペパーミント、マジョラム、ミント、レモンバーム等への寄生が確認されている。

7 被害

ローズマリーでは、本種の吸汁により葉表にかすり状の小斑点が生じる(図3)。被害が進むと葉が黄化し、最終的に落葉する。

## 8 防除対策

- (1) 令和3年1月現在、本種に使用可能な登録農薬はない。
- (2) 防虫ネットで本種の侵入を防ぐ。
- (3) 被害が大きい株は抜き取り、処分する。



図1 *Eupteryx decemnotata* 成虫



図2 *Eupteryx decemnotata* 成虫頭部



図3 ローズマリーでの被害の様子

問い合わせ先：静岡県病虫害防除所

TEL. 0538-36-1543